

研究主題 「桜町プラン2005－豊かな言語環境を学校生活に－」

世田谷区立桜町小学校 鈴木裕子他5名

1 研究のねらい

国際化・情報化の進展、価値観の多様化等の社会の変化とともに、日本語を取り巻く環境も大きく変化し、また日常生活における言葉の乱れ、読解力の低下等も指摘されている。

また、本校の児童の実態として、相手に自分の気持ちや考えを適切な言葉で伝えることが苦手なために、良好な友人関係づくりに結びつかない事例も見られる。

以上のような課題や児童の実態等をふまえ、学校の教育活動全体を通して言語環境を豊かなものにするための計画の作成を研究のねらいとした。

2 研究の内容

(1) 「桜町プラン2005」の構想

国語と他教科や総合的な学習の時間とを関連させて、言語環境を豊かなものにするのをねらいとして作成した。そのために「表現力を育てる」「言語感覚を養う」「伝統・文化に触れる」という三つの取組を行う。

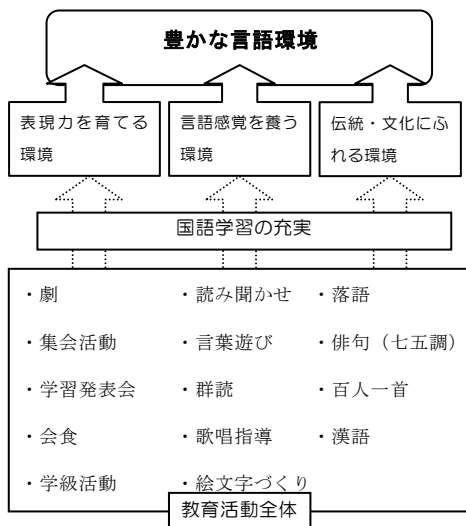
三つの取組の主なねらいは、以下の通りである。

ア 表現力を育てる……各種集会（全校・学年・学級）や教科等での発表会などで適切な言葉で自分の意見をはっきりと述べるができる児童を育てる。

イ 言語感覚を養う……群読や七五調など言葉のリズムの美しさ、漢字やかなの由来、日本語の正しい使い方、などの学習を通して言語感覚を養う。

ウ 伝統・文化に触れる……落語、俳句づくりなどの学習を通して、古くから培われてきた日本語のもつ美しさに触れさせる。

■桜町プラン2005の構想



■桜町プラン2005

学年等 取組	わかさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年	専科	全校
◎表現力を育てる		昨日の話をしよう (国語科)	劇と群読 「へそをとられたかみなり」 (国語科)	ことばのレストラン (国語科)		未来の川サミット (総合)			あいさつ運動
◎言語感覚を養う				漢字歌をつくろう (国語科)		日本語を考える (国語科)		科メ 広げよう 漢字の 工作イ	よみきかせ
◎伝統・文化に触れる							俳句をつくろう (国語科)		落語に親しむ

(2) 「桜町プラン2005」の実践

ア 国語科 単元名 「漢字歌をつくろう」(第3学年)

漢字歌を学習することにより、リズムを意識して表現することのよさを考えながら文章を書くことができるようになった。言語感覚を養うという観点から、例えば「動」を

使った熟語では、「動物」という熟語以外にも「ふ動さん」、「感動」など文字の使い方の違いをとらえるよい機会となったと考える。伝統・文化の観点から、七五調のリズムの中で楽しみながら漢字歌を作ることにより、俳句・川柳・短歌などを身近に感じるきっかけとなった。

イ 国語科 単元名 「ことばのレストラン」～言葉あそび大会～（第2学年）

ことわざ、俳句等に親しむ機会となり、日本の伝統文化に対する関心も高まった。回文など今まで知らなかった言葉遊びにも触れ、言葉遊びの楽しみの幅を広げ、言語感覚を養うことができた。児童の言葉に対する関心が高まり、言葉に関する本を借りて調べる児童や、会話の中に言葉遊びを楽しんでいる児童が見られるようになった。言葉のもつ美しさやおもしろさ・リズム感に気付く児童が多くなった。

ウ 図画工作 題材名 「ひろげよう漢字のイメージ」（第5学年）

自分が取り上げる漢字を選び、イメージストーリーを考えながら視覚化していった本時の活動は、まさに言語活動であり、言語感覚を養うことにつながったと考える。また、独創性を感じさせる作品が多く、児童一人一人の個性が生かされており、豊かな創造活動がおこなわれていた。本時の終末で、児童の作品を発表し、伝え合い、話し合う場面を設定すれば、さらに言語感覚の育成に迫ることができたのではないかと考える。

3 研究の成果

(1) 桜町プランの作成

児童の実態を踏まえ、「豊かな言語環境」を「豊かな心」を基底とした「表現力を育てる環境」「言語感覚を養う環境」「伝統・文化にふれる環境」から構成した独自の計画を作成した。今後は、学年、各教科等のねらいや特質を生かした計画の作成に取り組む。

(2) 児童の変容

ア 考える力の育成

言葉を意識した授業を工夫し、十分に言葉とかかわる時間を確保した。そのことにより、学習発表会で詩をつくる際に、言葉のリズムを意識し、より良いものを作ろうと試行錯誤を繰り返すなど児童に言葉を通して考える姿が多く見られるようになった。

イ 思いやりの心の育成

発表をする際に、聞く相手によって言葉を選んだり声の大きさを変えたりするなど相手を意識した表現をする児童が多く見られるようになった。また、聞く側も真剣に聞き、質問を考えるなど発表する立場に立って聞くなど、思いやりをもって相手に接する姿が多く見られるようになった。

ウ 日本文化への理解

授業を通して漢字に対する興味・関心を高めるだけでなく、日常生活でも言葉への注意力を高めることにつながった。また、七五調のリズムに慣れ親しむことができ、俳句や短歌の学習につなげ日本文化への関心をもつ児童が見られるようになった。

<共同研究者>

世田谷区立桜町小学校

遠田 美紀

田沼 哲哉

高鍋 恭子

岩田 郷子

鈴木 裕子